

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市沼垂西3丁目
電話 (243) 0141
20年10月26日

各支部で計画中の相談会を案内しながら新型コロナ対策の民商を全業者に知らせよう

山ノ下支部
対象者不在から続々と入会者を迎える

山ノ下支部は、東山ノ下支部・太平洋支部と協力し、コロナ対策の相談会に毎月取り組んでいます。こうした活動の中で、これまでに4名が入会。持続化給付金での相談が多く、申請がオンラインのみで対応ができない人が多いことを浮き彫りにしています。

中古車販売業を営むAさんは、知り合いからの「民商に相談したら」のひと言があり入会。不動産仲介業のBさんは、二



十年前に会員だったことを思い出し相談に再来再入会となりました。さらにBさんは仲間の業者を紹介しました。部品加工業のCさん、ブリーダーのDさんは、元県議の渋谷明治さんから民商を紹介され入会。他に過去の新聞折込チラシを持って相談に来られた方もいます。

山ノ下支部役員会では、地域の業者が廃業していく中、入会の対象業者はいないのではないかと、このたび続々と入会があり、嬉しい状況です。12月には新入会員歓迎会を開催する予定です。

全商連総会を運動の高揚の中で迎えよう

現在、新型コロナ対策の相談は500件を超え、持続化給付金の申請は400件に上ります。多くの方から「民商に入っていてよかった」を実感されている状況です。

全商連は11月15日に総会を開催します。新潟民商では、総会を組織建設の高揚の中で迎えるために、読者200名・会員50名を増やそうと奮闘しています。

全会員が新型コロナ対策の声掛けをすすめながら、読者・会員を増やす運動に参加することを訴えます。

日程

- ・第2回常任理事会 10月30日(金)
- ・民商共済会大腸がん検診実施 各支部の持参日
- ・全商連定期総会 11月15日(日)

共済会学習会で懇親深める 白根支部

白根支部では10月18日に弥彦さくらの湯にて、共済会学習会を開催し12名が参加しました。

初めに藤崎支部長から「全商連総会に向けた拡大行動があり、みなさんと協力して仲間を増やしていこう」と挨拶がありました。

学習会では共済会パンフレットを活用し「給付基準、金額」について学び合いました。さらに「加入届」「退会届」「共済金請求書」の記入についても学び合い、支部での共済係の確立につながる学習会となりました。

懇親会では、今回参加できなかった役員からの差し入れもあり、大いに盛り上がりました。白根支部では全会員が集まって活動できる支部を目指して、様々な企画を検討中です。



新潟民商共済会

大腸がん検診のお知らせ



今回で二十二回目を迎える大腸がん検診です。民商共済会会員は無料で受けられます。未会員の方は500円です。検診方法は潜血検査方法です。検診を受けたい方はお近くの共済会役員または支部役員まで連絡をお願いします。各支部で決められた日時に、容器を所定の場所に届けてください。

※検診の際について氏名記入のお願い

容器に入ったグリーンの袋は漢字で氏名記入を(フリガナも)容器のラベルにはカタカナで氏名の記入をお願いします。記名がないと検査結果がお返しできません。

「今こそひとりぼっちの業者婦人をなくそう」 県婦協第39回定期総会を開催

10月18日に燕市にて県婦協の定期総会が開催され、新潟民商から10名が参加しました。

冒頭、渡辺会長は「コロナ感染拡大の収束にはまだ時間がかかりそうだが、婦人部活動が止まってしまわないよう訪問し給付金のお知らせをしている。自身も申請したが、改めて自主記帳の大切さ・学習会の必要性を感じた。一人で悩んでいる部員に声をかけていこう」と挨拶しました。



代表発言では、新潟民商の和合婦人部長が「部員の様子を知る事が大事だとコロナ禍の中、少しでも心が晴れる様プレゼントをもって訪問。アンケートでは収入が減ったという人が6割以上。国保や消費税を下げたいという声が多い。給付金の不備メールなどにも改善を求める運動が必要です。申請対象者はまだいるはず。訪問を強め、民商を宣伝していこう」と発言しました。

コロナ禍で少人数の総会でしたが、最後に総会方針・決算予算案・役員提案を可決して終了となりました。



子育てから商売まで楽しく交流 北区で婦人部ランチ会を開催

松浜・南浜両支部の婦人部合同で10月15日にランチ会を開催。会場は松浜支部会員のお店「レストラン・森のタヌキの音楽隊」を借りて、中村勉支部長も含めて8名が参加しました。

最初に中村支部長は「このランチ会も年1回に限らず、定期開催できればと思う。婦人部で様々な企画をして欲しい。また、身近に困っている業者がいたら民商に紹介して欲しい」と挨拶しました。

北区のランチ会は若手の参加が多いのが特徴です。そのせいか話題も子どもの学校や塾の事などが多く出されます。商売の交流も含めて楽しく交流しました。

ランチ会終了後は北地区公民館へ会場を移し、定例開催している記帳会を行いました。



業者婦人が光り輝く社会を目指して各地で婦人部奮闘中

中央支部

中央支部では10月13日に土田文江婦人部部長と大山美栄同副部長で部員訪問。婦人部からのプレゼントを持参し8名と対話しました。

本町市場ではたまたま料飲支部長と遭遇しビックリ。また「地域の茶の間」を経営されている方と対話し入会の声掛けを行いました。その方は「開業届の提出が遅かったが持続化給付金にチャレンジする」との事。土田さんに「いつも行列ができていますね」と話すと、すぐに打ち解けていました。古町ではお互いがテレビによく登場する店同士ということで話しも弾み、支部役員の内藤さんとは「昔、出前にいったね」「久しぶりだね」と再会を喜び合いました。

今回の訪問で新たなつながりも生まれました。商売や暮らしの思いを語り合えるよう、次回はランチ会で互いに励まし合い支え合える婦人部を目指します。



曾野木支部

10月12日に和合婦人部長が曾野木支部の婦人部を訪問。13名と対話しました。夕方からの訪問ということもあり、夕飯の準備で忙しいかと不安でしたが、どこも快い対応。対話の中で民商の大腸がん検診の話となり「親戚と受診するよ」との声も出されました。

また飲食業の方からは「持続化給付金の申請はしたが生活は苦しい。他に何かできないか?」との質問が。和合婦人部長が即座に国保の減免申請について説明すると「やってみようかしら」と笑顔を見せてくれました。いつもお世話になっているからと飲み物を差入ってくれる方もいました。

今回の訪問で曾野木支部婦人部員の半数を訪問する事ができました。支部では婦人部員をさらに増やして、訪問や集まりを開く中で婦人の輪を広げようと話しています。

